

【埼玉県さいたま市】スマート・ターミナル・シティさいたま

■都市課題

- ・鉄道駅周辺の慢性的な**交通渋滞の解消**
- ・東日本の玄関口としての**交流拠点**形成
- ・大宮－さいたま新都心間の**回遊性向上**
- ・商都大宮をはじめとするまちの**にぎわい再生**（ほか）

■解決方策

「市民のウェルビーイングな暮らしを実現するくスマートシティさいたま」の実現に向け、駅を核としたウォーカブルで誰もが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境を構築。

■KPI

	現況値	目標値
シェアサイクル利用回数	100%	110%
シェアスクーター・超小型EV利用回数	100%	110%

■実証実験の概要・目的

駅を核としたウォーカブルで誰もが移動しやすい、人中心に最適化された都市空間・環境くスマート・ターミナル・シティの形成に向け、ラストワンマイルのパーソナルな移動手段の多様化を図るため、市内および他都市へ展開・実装された「シェアサイクル」に「シェアスクーター」「超小型EV」を加えたサービスの実装(R6目標)、特定小型原付(小型電動スクーターなど)等新たなモビリティの拡充・実装(R7目標)を進める。

■実証実験の内容

利用者増加に向けたエリア拡張とステーション配置の最適化 (スマートプランニング)

- ・さいたま市では、モビリティサービスの充実に向け、**シェアサイクル・シェアスクーター・超小型EV等のモビリティサービスの実装**を目指している
- ・本実証では、**R6年度の実装**に向けて利用者増加を図るため、**モビリティから取得したGPSデータ等を活用し、市全域へのエリア拡張とステーション配置の最適化**を進めた。



■実証実験で得られた成果・知見

- ①データに基づく市民にとってより身近で利便性の高い交通網の形成
シェアモビリティ利用実績データや3D都市モデルを活用し、モビリティサービスの需要が特に高いと思われる55カ所特定し、3D都市モデルから低未利用地等を抽出した。実際に5カ所に設置し設置意義を確認した。
- ②既存モビリティ利用実績に基づく新モビリティ導入可能性の示唆
自家用車に依存しないまちづくりを進める上で、移動時間を短縮させ効率的に移動できる**新モビリティを導入することが、需要に適合**している可能性が示された。
- ③スマート・ターミナル・シティ実現に向けたモビリティ効果測定手法等の深化
モビリティサービス導入による地域への寄与度の計測手法を確立し、**流入量・滞留時間の増加傾向を確認**した。

■今後の予定

特例特定小型原動機付自転車などの新たなモビリティのシェアリングサービスを導入し、より多様な移動手段（選択肢）を市民に提供することによる自家用車からの転換効果・中心市街地の来訪機会創出効果を検証する。

《新モビリティの例》

